

日本薬局方 キシリトール注射液

キシリトール注〔ヒカリ〕5%

貯 法：室温保存

使用期限：外箱、容器に表示の使用期限内に使用すること。

注 意：取扱い上の注意の項参照

※注1)注意－医師等の処方せんにより使用すること

承認番号	16000AMZ05578
薬価収載	2003年12月
販売開始	2004年2月
再評価結果	1977年10月

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

低張性脱水症の患者

[本症はナトリウムの欠乏により血清の浸透圧が低張になることによって起こる。このような患者に本剤を投与すると、水分量を増加させることになり、症状が悪化するおそれがある。]

【組成・性状】

※※1. 組 成

本剤は1本(500mL)中に、キシリトール25gを含有する。

熱 量	100kcal/500mL
-----	---------------

2. 製剤の性状

本剤は無色澄明の液で、味は甘い。

pH	4.5～7.5
浸 透 圧 比	約1(生理食塩液に対する比)

【効能・効果】

糖尿病及び糖尿病状態時の水・エネルギー補給

【用法・用量】

キシリトールとして、通常成人1日2～50gを1～数回に分けて静脈内注射または点滴静注する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、キシリトールとして1日量100gまでとする。
点滴静注する場合、その速度はキシリトールとして0.3g/kg/hr以下とすること。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

1) 尿崩症の患者

[本症には適切な水分、電解質管理が必要であり、本剤の投与により電解質等に影響を与え、症状が悪化するおそれがある。]

2) 肝障害、腎障害のある患者

[キシリトールの大量を急速投与すると肝障害、腎障害があらわれるおそれがある。]

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。
副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

大量・急速投与：キシリトールの大量を急速投与すると、電解質喪失を起こすことがある。また、肝障害、腎障害があらわれることがある。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

1) 投与経路

静脈内に投与すること。

皮下大量投与により血漿中から電解質が移動して循環不全を招くおそれがあるので、皮下投与しないこと。

2) 投与前

- ① 投与に際しては、感染に対する配慮をすること(患者の皮膚や器具の消毒)。
- ② 寒冷期には体温程度に温めて使用すること。
- ③ 開封後は直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。

3) 投与時

ゆっくり静脈内に投与すること。

5. その他の注意

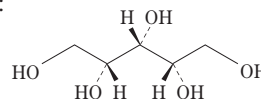
キシリトールの大量を急速に静注した場合、諸臓器、特に腎、脳にシュウ酸カルシウムの沈着が認められたとの報告がある¹⁾。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：キシリトール(Xylitol)

化学名：*meso*-Xylitol

構造式：



分子式：C₅H₁₂O₅

分子量：152.15

融 点：93.0～95.0℃

- ※※性 状：・白色の結晶又は粉末で、においはなく、味は甘い。
・水に極めて溶けやすく、エタノール(95)に溶けにくい。
・吸湿性である。

※※【取扱い上の注意】

1. 輸液セットの瓶針又は混注の際の注射針は、ゴム栓の刺針部(凹部)に垂直に刺すこと。斜めに刺すと排出口側壁を刺通し、液漏れの原因となることがある。また、同一箇所を繰り返して刺さないこと。
2. 内容液に着色又は混濁等の異常が認められる場合は、使用しないこと。
3. 容器の目盛りはおよその目安として使用すること。
4. 連結管による混合投与の場合は、Y字管連結にして使用すること(U字管連結はしないこと)。
5. 通気針は不要である(混注量により通気針が必要な場合があり、また、輸液の液量が少なくなると排出速度が低下してくるので、設定の投与速度を維持して使用する場合には通気針を用いること)。
6. プルオフキャップの取り外し方は、裏面を参照すること。

※※【包 装】

500mL×20本(プラスチックボトル)
(プラスチックボトルはポリプロピレン製容器である。)

【主要文献及び文献請求先】

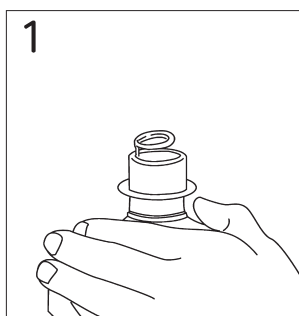
〈主要文献〉

- 1) Schröder, R. et al. : Schriftenreihe Intensivmedizin,
Notfallmedizin, Anästhesiologie, 14 : 15-19(1979)

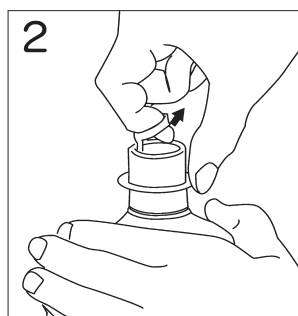
〈文献請求先〉

光製薬株式会社 医薬情報部
〒111-0024 東京都台東区今戸2丁目11番15号
TEL 03-3874-9351 FAX 03-3871-2419

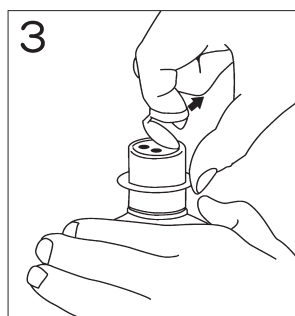
プルオフキャップの取り外し方



プルオフリングの支柱部が向こう側になるようにボトルを保持します。



プルオフリングの上から人差し指を入れ、リングに指をかけます。



親指でささえ、手前方向へ約45度にゆっくり引くと取り外せます。

製造販売元



光製薬株式会社

東京都台東区今戸2丁目11番15号